

奈良古墳群(沼田市)

薄根川に架かる橋から奈良古墳群のエリア(正面前方)を見たところ

[video](#)



橋を渡ってここを右折する/奈良古墳群の大きな案内看板が立っていた



少し進むと幾つもの墳丘があり、前方に説明板が立っているのが見えた！

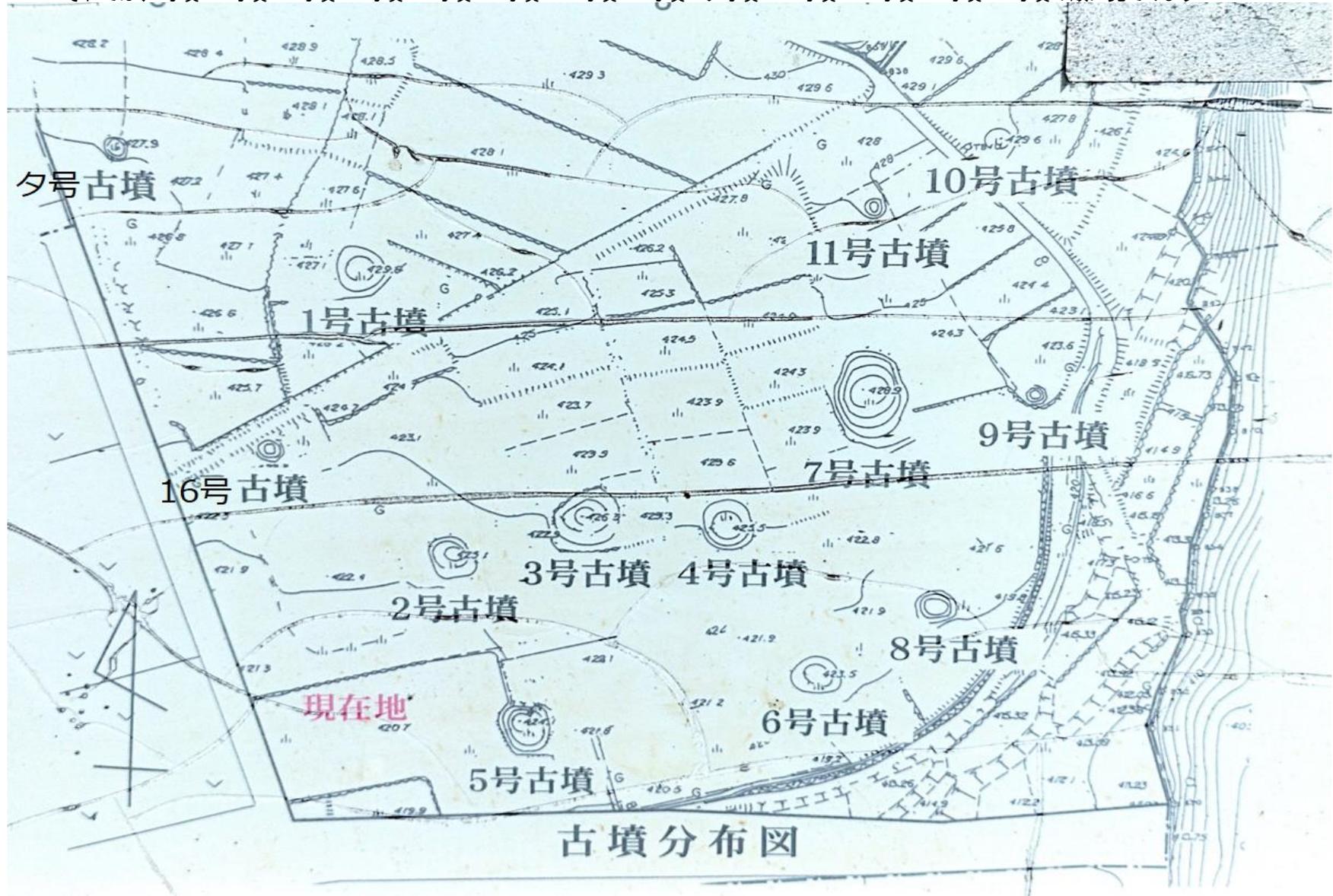
[video](#)



薄根川右岸の奈良町字大平・八幡平一帯には、かつて奈良の百塚と称されるほど多数の古墳が存在していたが、土地改良工事等によって多くの古墳が失われた。現在は、古墳群東側の古墳公園予定地三万六千²mを主として比較的状况の良好な古墳が十数基が残存している。古墳の特徴や出土資料から、全て古墳時代後期末の七世紀頃に造られた円墳と推定される。最大の7号古墳は墳丘の直径が約十五〜二十m、高さ約三・五mを測る。

古墳の埋葬主体部は横穴式石室で、付近で発掘調査された古墳石室内からは死者に添えられた武器・馬具・装身具等の副葬品が、古墳周辺からは供えられた須恵器の破片が多数発見されている。古墳群東端の10号古墳の石室形態は県内でも稀少で、石室側壁中央から片側にほぼ直角方向に伸びる小石室が付設されている。

それでは、5号墳～6号墳～8号墳～4号墳～3号墳～2号墳～16号墳～1号墳～夕号墳～11号墳～10号墳～9号墳～7号墳の順に見てみよう！



5号墳/反時計回りに回ってみよう(以下、同様)









葺石が見て取れる



天井石が剥き出しになっている







6号墳









石室のものと思われる石が転がっている





8号墳









こちらも石室の石が転がっている



4号墳









天井石の隙間がある



石室内を覗いたところ



3号墳











石室内を覗いたところ





2号墳











石室内を覗いたところ





16号墳



低い墳丘となってしまうようだ







石室の名残のような感じ



1号墳













石室内を覗いたところ



奥の天井石の部分に隙間がある



そこから石室内を覗いたところ



夕号墳



これも低い墳丘となってしまっているようだ







表示板も倒れていた



こちらは小祠があった場所で、墳丘のようなマウンドは残っていないが、怪しい雰囲気



畑となってしまうているが、小祠の周りには石室もしくは葺石の石のようなものが散在していた



さて、前方は11号墳(左手)と10号墳(右手)



11号墳













天井石の部分に隙間がある



そこから石室内を覗いたところ



10号墳









ここは横穴式石室の入口が良く残っている

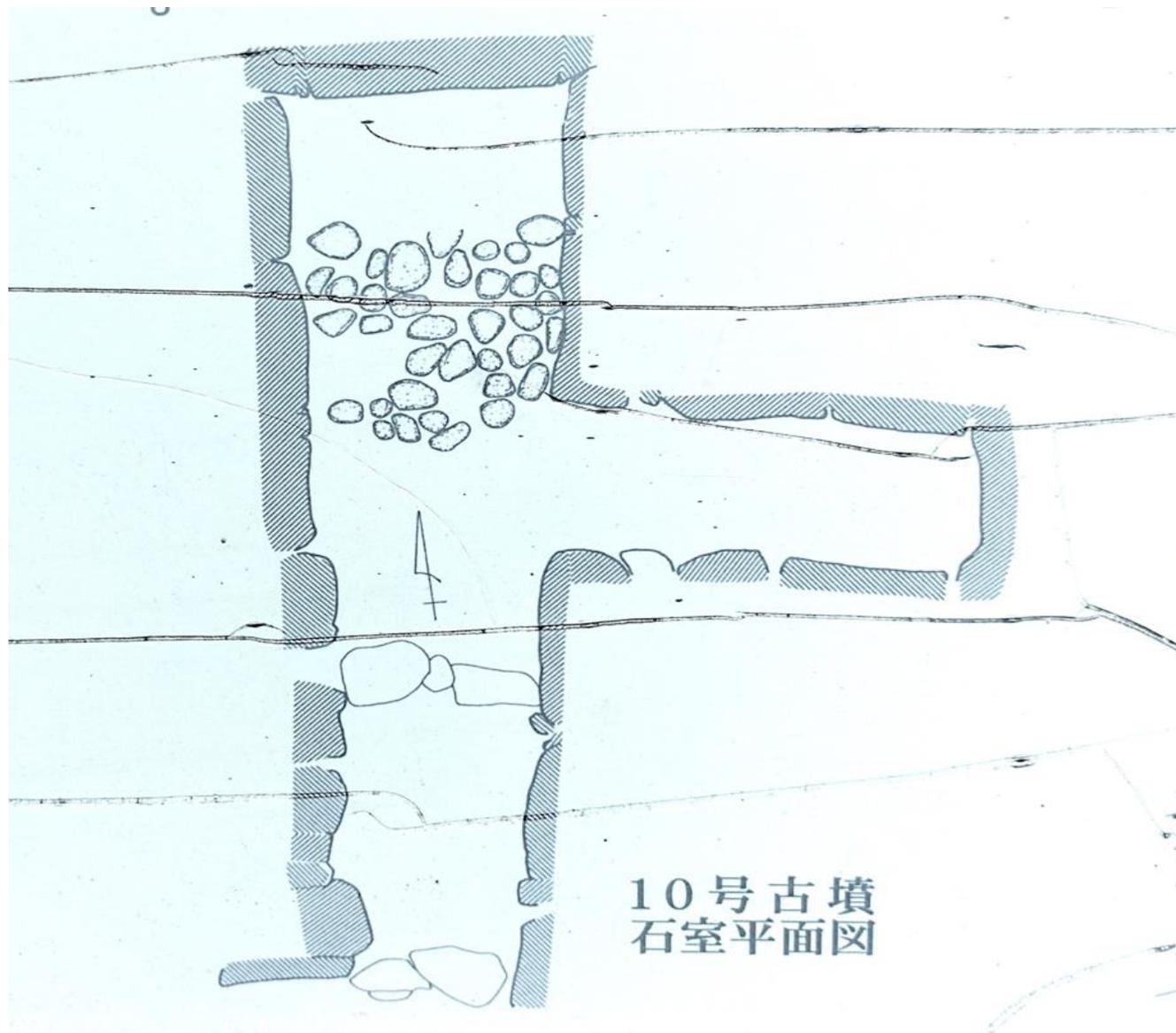


石室内を覗いたところ



右手前の側壁に直角方向に伸びる小石室がある





10号古墳
石室平面図

こな塩梅



奥壁は切り石が使われているようだ



9号墳











石室内を覗いたところ/奥壁は一枚石のようだ





奥壁側から覗いたところ



7号墳









こちらも横穴式石室の入口が良く残っている



石室内を覗いたところ/こちらも奥壁は一枚石のようだ

[video](#)



それでは墳丘に登ってみよう！

 video



横穴式石室の入口を見下ろしたところ



アップで見たところ



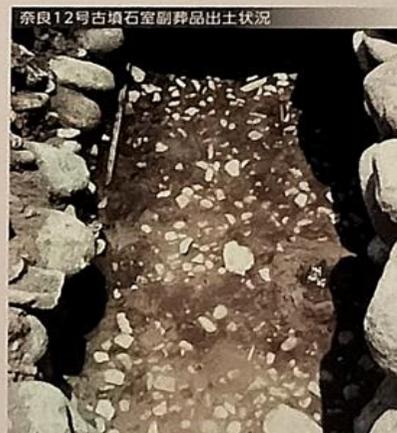
これは沼田市歴史資料館に展示されていたキャプション

馬の飼育と沼田の古墳人

Horse breeding and ancient inhabitants of Numata City

6世紀中頃の榛名山二ツ岳噴火の軽石降下後、終末期の7世紀になると今まで古墳がなかった地域にも新たに小古墳が集中して造られ、群集墳を構成するようになりました。

市内では、薄根川沿いの奈良古墳群と秋塚古墳群が代表で、対岸には川場村の天神・生品古墳群などが分布しています。これらの古墳は、直径10m前後の小円墳が多く、埋葬部は横穴式石室です。石室内からは副葬品として武器類と装身具類のほか、馬具類が多い特徴があり、馬の飼育に携わった人々の古墳ではないかと推察されています。



同じく、展示されていた奈良古墳群出土の遺物



沼田市指定重要文化財

奈良古墳群出土品 (個人蔵)

左: ^{こんどう}金銅製品

右: 鉄製品等



